

# 2005年夏FIWC中国キャンプ

## 報告書

日程：8月9日～8月19日

場所：広西省桂林市平山村



## 目次

- 1．フレンズ国際ワークキャンプ九州（F I W C）の説明
- 2．中国（平山村）について
- 3．ハンセン病について
- 4．キャンプまでの道のり
- 5．メンバー・活動内容
- 6．現地到着までの日程・現地での一日の流れ
- 7．現地での日記
- 8．係別の感想・まとめ

# 1. フレンズ国際ワークキャンプ九州 ( F I W C ) の説明

## フレンズ国際ワークキャンプ ( F I W C )

フレンズ国際ワークキャンプ ( F I W C : Friends International Work Camps ) は、 1 9 5 3 年より日本国内外で様々な活動を展開してきており、現在では、関東、関西、広島、九州委員会 ( 支部 ) があります。その活動内容は、日本、韓国、中国におけるハンセン病快復者の療養所や定着村における諸支援活動から、フィリピンでの水道建設プロジェクト、ネパールでの学校建設などです。なお F I W C は、一般市民、学生による非政府組織であり、いかなる政治・宗教団体とも一切関係がありません。

## F I W C 九州

2 0 0 4 年 4 月に設立されたばかりの新しい支部です。これまで大分での稲刈りキャンプなどを行い、2 0 0 5 年春にはフィリピンでのワークキャンプを行いました。

# 2. 中国 ( 平山村 ) について



行政区画は、23 个省、5 つ自治区、4 つ中央直轄市からなる。省の規模は大きく、その下に、県、市、区があり、末端の単位は郷と鎮。

人口 : 約 1 3 億人

総面積 : 9 6 0 万平方キロメートル ( 日本の約 2 6 倍 )

民族 : 漢民族 ( 全体の 9 2 % ) および 5 5 の少数民族

言語 : 漢語 ( 中国語 )

時差 : 日本より一時間遅れ

宗教 : 仏教・回教・キリスト教など

## 広西省桂林市

広西チワン族自治区の北東部の都市。昔から「桂林の山水は天下第一」と言われた景勝地で、町全体が山水画そのものといった雰囲気。明代から長く広西省の省都で、現在も桂林地区の行政、経済の中心地になっていて、近年は工業都市に変貌している。

## 平山 ( ピンシャン ) 村

1 9 5 3 年に設立されたハンセン病患者・快復者の村で、2 0 0 4 年二月よりキャンプをしている村。村民数は 1 7 人。2 0 0 5 年 2 月に F I W C 関西と九州が来たのもここ。雄大な桂林の山に囲まれていて、日中はからっとした日差し。涼しい夏の夜を楽しみながら、村人とビールを飲み交わす。鶏や犬、牛がいっぱいいて、のんびりとした雰囲気が漂っている。村のそばには鍾乳洞や山に空いた大きな穴があり、実際に近くまで行って見に行くことができる。近くに川もあり、乾季には問題ないが、雨季には車では渡れない。一方、この川は村と外の世界を隔ててみいる。

## 3 . ハンセン病について

### 概論

ハンセン病とは、らい菌の発見者（ノルウェーのハンセン氏、1873年に発見）の名にちなんで、今日では「ハンセン病」という呼び方が一般的になっています。ハンセン病は、「らい菌」による感染症ですが、感染力は微々たるものです。極度の栄養失調・極端なストレス状態から自然発症することもありますので「貧困病」とも呼ばれます。

### 感染と発病

ハンセン病では、らい菌の感染とハンセン病の発病とを厳密に区別して考えることが重要です。らい菌の毒性は極めて弱く、ほとんどの人に対して病原性を持たないため、人の体内にらい菌が侵入し、感染が成立しても、発病することは極めてまれです。特に成人がらい菌に感染した場合には、らい菌に対する免疫機能が先天的に不十分な人はごくまれに発病する以外は、発病することはないと考えられています。

### 症状

ハンセン病を発症すると主に末梢神経と皮膚が侵され、

- 1 . 一見して外見に明らかな変化（結節など）をきたす皮膚病の特徴
- 2 . 身体障害（知覚麻痺、視覚障害など）を引き起こす神経病の特徴
- 3 . 負傷による二次的な障害（知覚が鈍くなっているために、手や足に傷を負ったり、やけどをした時に気がつくのが遅れ、怪我の状態がひどくなるまで治療せずに放置されたりするため。）

などの症状がでます。ハンセン病は、主として、こうした2次的な障害による外見上の醜さから、古くから特殊な病気として取り扱われ、患者とその家族は多くの偏見と差別を受けてきました。

### 治療

現在では、ハンセン病は早期発見と早期治療により、障害を残すことなく短期間で完治する病気です。また、不幸にして発見が遅れ、障害を残した場合でも、形成手術を含む現在のリハビリテーション医学の進歩により、その障害は最小限に食い止めることができます。

## 4 . キャンプまでの道のり

### 第一回 中国キャンプミーティング&初顔合わせ

日時：7月16日（土）15：00～18：00

場所：青年センター5階打ち合わせスペース

- ・この日には、  
事前の安全対策について、  
参加同意書の配布、  
日程、航空券、費用の確認、保険加入について  
役割分担決め  
もって行く持ち物の確認  
宿題（料理、レク内容、おみやげ、ハンセン病理解、  
中国学生&村の方々との交流ノウハウ etc）を話し  
合いました。



## 第二回 中国キャンプミーティング

日時：8月2日(火) 14:00~17:30

場所：九大六本松キャンパス大学院研究室空き部屋

- ・当日話し合った内容です。
  - 航空券、保険、参加申込書の確認
  - 安全対策の確認
- ・ピンシャン村からの最寄病院(潮田衛生院)の確認
- ・連絡手段(日本 現地:タイランのパソコン、現地 日本:携帯電話(まだ確認中))  
軽く自己紹介(みかが今回初顔合わせでした)  
現地までのスケジュールの確認  
持ってゆく持ち物の確認
- ・お金は、交通費5000円とプロジェクト費5000円の計1万円を福岡空港にて徴収することになりました。
- ・マニュアル以外の持ち物としてトイレットペーパー、おしり拭き(ウェットティッシュ)、電子辞書、懐中電灯などが話題となりました。  
レクについて
- ・おどり系列、手品、トランプ、スイカ割り、ケンダマなど。キャンプソングについてはまだ未定です。  
食事について
- ・九州キャンパーとして、カレー粉、すし太郎(チラシ寿司)を分担して持っていくことに決まりました。その他、各自でコンソメ、ダシの素、ポカリの粉、お茶漬け、みそなどを持っていく予定です。  
宿題の発表
- ・第一回ミーティングでの宿題がありましたが、各自それぞれの発表(ゆき:村に行ったことがある人ならではの経験談、えり:足浴やハンセン病について、ゾゾ:中国学生との交流について)を行いました。  
その他
- ・タイランが九州スタッフを把握するために、メンバーリストをえりが作成することにしました。

## 共同買出し

日時：8月8日(月) 14:30~

場所：新天町百円ショップ

ケア用品(ガーゼ、ピンセット)、名札用の帽子、ハンドソープ、などなど、合計4000円以上の買い物をしました。その後中国キャンパーにプレゼントするためのプリクラを撮りました。

## 5. メンバー・活動内容

### メンバー

- ・よっぴ(総リーダー&生活リーダー)
- ・ゆき(サブリーダー&ケアボス)
- ・あおき(会計リーダー)
- ・みか(レクリーダー)
- ・えり(食事リーダー)
- ・ゾゾ(記録)
- ・こまきじいちゃん(あんちゃん)

の7人で福岡空港を出発しました。それと現地にタイラン、タカ(ワークリーダー)がすでにいました。

### 活動内容

1. 平山村は、雨季になると洪水になり、村の家々は浸水してしまいます。そこで、村の排水溝を整備しました。具体的には、村の近くにある地下空洞へ溝をつなげて、溝自体を深くするために、障害となっている石を取り除きました。
2. 村の人々へ医療ケア(足浴:足を水につけて洗ってきれいにした後、傷口付近の皮膚が硬くなっているところをヤスリやナイフで切り落とします。このケアで、更に傷口が進行するのを防ぎます。)を行いました。
3. 村の家々を訪問(ホームヴィジティング)して、コミュニケーションをとりました。

## 6 . 現地到着までの日程・現地での一日の流れ

### 現地到着までの日程

9日	15:00	福岡空港国際線バスターミナル集合。ここで村費（一人一万円）を回収。
	17:20	福岡空港出発。 航空機移動
	19:40	広州空港到着。ここで待機してもらっているジエシャン（タイランの彼女）、ピピアンと合流し、空港内の銀行で円を人民元と交換。
	20:15	広州空港出発。なぜかバス内では黒人さんが多い。しかもその黒人さんはバスガイドのお姉さんの運賃支払い要求を完全無視（笑） バス移動
	20:15	レストランに到着。みんなで今回初中国料理を楽しむ。その後は徒歩で広州バスターミナルまで移動。
	22:30	広州バスターミナル到着。3人の中国人キャンパー（ノーマン、スケート、大笑い）と合流。ターミナルの駅でジュースを買うが、ぼったくられる。（3元のところ5元で買わされました。）そしてここでキロロの歌が流れており、キャンプソングに決定。ここでジェイシャー、ピピアンとはお別れ。
	23:30	広州バスターミナル出発（夜行バス）。
10日		バス移動
	10:40	桂林バスターミナル到着。ここでタイラン、ロジャーと合流。すぐにタクシーで移動。
	11:00	タクシー移動 スワンホテル到着。ここで会計やバケツの話し合いを行い、昼飯の買出しに出かける。たった5毛で餃子や饅頭、ゼリー（？）を買えるのにはみんな驚き。
	13:00	スワンホテル出発 タクシー移動
	13:30	桂林医学院前到着。バスがくるまでの間、バケツ、長靴などを購入。ここでヤンユー、ジュンジュンと合流。
	14:30	桂林医学院前出発。途中のお店で大量のビールを購入。かなりおいしいと評判でした。 バス移動
	16:30	平山村最寄りの村到着。ここで待機していたタカ、 と合流。バスからトラックの荷台に乗り換え、村を目指す。なぜか迷彩服な中国チームに驚く。 トラックにて移動
	17:00	ピンサン村到着！！

### 現地での一日の流れ（基本）

~06:00	起床（朝ご飯チーム）
~06:30	起床（全体）
06:40~07:20	朝ごはん
07:30~10:30	ワーク
11:30~	お昼ごはん
14:30~17:30	ワーク&ケア
18:00~	晩ごはん
21:00~	リーダーミーティング
21:30~	全体ミーティング

## 7. 現地での日記

### 8月10日

キャンプ初日。ガタガタトラックで乾いた川を渡り、険しい傾斜の山道を超えるとそこはピンシャン村でした。みんなで荷物を降ろしたり、ワーク予定の排水溝を見学したりしていると、もう夕食のスタンバイができていた！ほんとにありがたい。そしてピンシャン村での初料理は...うまい！夕食後は担当の仕事別に別れ、会議。ワークチームは一日の流れを決め、食事チーム、生活チームはそれぞれ担当を決めました。そして今度はみんなで集まって全体会議。意見を活発に出し合い、それぞれのチームが主体的に仕事を進めているのがすごかったです。その後はウォンウォンの誕生日会！今日買ったビールをぶちまけたり、ケーキのチョコを顔につけあったりしてとても思い出に残りました  
(ゾゾ)



### 8月11日



キャンプ2日目。初のワーク！中国チームの男の子は筋肉モリモリで、重い石もなんのその。それに負けじと我らのリーダーよっぴもそのパワフルな底力を発揮しました(笑)昼ごはんの後は一部のメンバーは村の人のお墓へ。長い間訪問した人がいなかったようで、草が多く生えていたので、みんなで雑草を取り、きれいにしました。夕方からは、村人を呼んでの交流会。チンおじいさんの誕生日(82歳！ご長寿)でもあったので、みんなで酒を交わし、楽しく祝いました。ここでタイランがみんなのターゲットにされ、酔い潰されてしまいました(笑)残りのメンバーでジャンプゲームをしたのですが、これが胴上げをされているみたいでとても楽しかったです。  
(ゾゾ)

### 8月12日

キャンプ3日目。二回目のワーク。今までメインで石を運んだ溝の他に、もう一つの溝を作るため、スコップで本格的に穴を掘り始めました。途中で石にぶつかり、それを取り除く作業と平行して行ったため、なかなか大変でした。午後からは初のケア&ホームヴィジットの時間でもありました。みんな初めてだったため、タイランやあんちゃんに教をを請いつつ、足の傷口に薬を塗ったり、固くなってしまった皮膚を削り落としたりしました。夕食後、日本チームだけで飲み会を開いたのですが、開始早々ウォンウォンやジュンジュン、大笑いにばれてしまいました(笑)でもそんな中、みんなで語ったり、ジュンジュンに指の小技を教えてもらって面白かったです。  
(ゾゾ)



## 8月13日



キャンプ4日目。実は昨日にととてもおおきな岩のところまで石の除去が終わったのですが、その岩が動かさず困っていました。でも今日はこの原理で鉄の棒で押し上げたり、長い縄でみんなの力を合わせて引っ張ったりして、なんとか取り除くのに成功しました。気付けば、地下の空洞が深くまで見えていて、少し達成感を覚えました（笑）。夕方には昨日仕上げたキャンプソングの紙を壁に貼り、みんなで歌って練習しました。中国チームのキャンプソング『相思相愛』は発音が難しいうえにととても早いので、日本チームはととても四苦八苦していました。一方日本チームの歌『未来へ』は知っている中国キャンパーも多く、ととてもなじんで歌っていました。最終的にみんなで上手に両方の歌を歌えたらな、と思いました。（ゾゾ）

## 8月14日

キャンプ5日目。今日もワーク・ケアともに順調にゆきました。この日の午後は近くの鍾乳洞まで探検へおでかけ。川をおんぶして渡ったり、道なき道を進んだりして到着したその鍾乳洞の涼しさ、景色には圧巻でした。帰りには更に激しい道のりを登り、山のど真ん中に空いた大きな穴の下につきましたが、かなりの絶景でした。帰った後は村人を巻き込んでの出し物パーティー。中国側は太極拳の披露、歌の熱唱、二胡の演奏などのパフォーマンスで、日本側もオリジナルのダンス、マジックの公演、あんちゃんの歌披露など、本当に多種多様でキャンパーも村人も大盛り上がりでした。最後にはキャンプソングを肩を組んで歌ったり、アリゲーム(?)もしました。僕はこのすばらしい夜を一生忘れません。（ゾゾ）



## 8月15日



キャンプ6日目。目覚めてみたらもうゆき、ゾゾ、みかがいなくなっていました。寝過ごして見送れなかったのが本当に残念です。午前はケアをしましたが、だいぶ一人できるようになりました。でもやっぱりひとりでやるのは不安なので、よっぴみたくに何でもできるようになりたいです。午後からはフリータイムだったので、結構昼寝をしてこれからに備えるキャンパーも多かったです。でも私はせっかくの時間なので、あんちゃんやたかと洗濯を一緒にしたり、村人のおばあさんやおじいさん宅に行ってお話をしたりしてきました。とくにマアじいさん宅で飲むお酒とおつまみの味は最高でした！（えり）

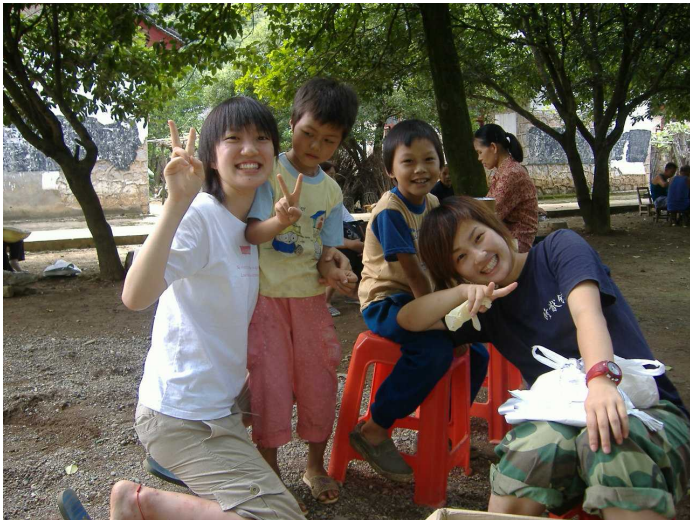


## 8月16日

キャンプ7日目。午前中に排水溝のワークが完了しました。最初はただたくさんある岩をちびちび運んでいて、キャンプ中に完成するとは思いませんでした。やはり協力は大きな力なり。これで村に洪水が訪れてもその被害が少しでも少なくなるようで、うれしいです。またケアの後には他にケアを必要としている人がいないか探し回りました。それからこの日はワークとケアのほかに、数人で隣村の役所を訪ねに行きました。隣村の人々からのハンセン病に対する差別や、それによって生じている諸問題（牛が勝手に農作物を食べる、など）について話し合いました。隣村のひとが、ハンセン病はうつる病気ではないのか、と質問してきたことが印象的でした。（あおき）



## 8月17日



キャンプ8日目。今日のケアでは、昨日声をかけた村人たちが来てくれました。しかもいままで傷をみせたがらなかった村人も、靴下を脱いで傷をみせてくれました。傷はあるけど迷惑をかけるかもしれないので、来なかったようです。やはり継続してケアを続けてこれで成果がでたようでよかったです。また、この日は初の試みとして、昨日訪問した、生活保護を受けているおじいちゃんに洋服を届けにいきました。家族や親類が近くにいないためか、彼らの顔は少し暗かったです。これからピンシヤン村のように継続して訪問することで、彼らにも活気が戻れば、と思いました。それから、キャンプアウトも近づいたので、掃除を始めました。少し寂しい気分になりました...(;\_;)（あおき）

## 8月18日

キャンプ9日目。午前中、キャンパーのうち数人は隣村の村長と会い、ピンシヤン村との関係を改善するための話し合いに参加しました。残りのキャンパーは最後のケアです。毎日行ったケアの甲斐あってか、村人たちの傷は目に見えてよくなっていきます。そして昼食後の束の間のお昼寝後、木陰に村人とキャンパーたちが集まり、交流会（話し合い）が行われました。特に重点的に話し合われたのが、村人たちが助け合わないことについて。キャンパーたちがこのことについて一人一人の意見を述べ、村人同士の協力関係改善の糸口を探しました。少々空気が重かったのですが、この後気分を切り替えていよいよ村人も参加のパーティの始まりです！日本側の出し物はBINGO！！お酒、タバコ、たか・あおき・えりのキス、よっぴのピンタなど景品（罰ゲーム！？）もぬかりなく。みんな夜遅くまで、肩を組み歌い、激しく踊り、そして熱く語り合い、最後の夜を明かしました。

村人を含め、まさにこのメンバーは一家人（family）だと感じた夜でした。

（えり）



# 8月19日



キャンプ10日目。目覚めみるとキャンプアウトの日。  
朝から10日間お世話になったピンシャン村の大掃除

です。私たちの出発の時間が近くなると、遠くの第一地区からも村人が見送りに来てくれ、抱き合って写真を撮り、みなそれぞれ別れを告げました。また必ずピンシャンに来る、という気持ちがあったからか、別れに涙する者は誰もいませんでした。午前八時半ごろ、手を振るあんちゃんを含め、大勢の村人たちに後ろ髪を引かれながらも、ガタガタトラックでピンシャン村を後にしました。桂林医学院に着くと、少し休憩し、芝生の上で早速今回のキャンプの反省会です。日本人は飛び交う中国語についていけなかったのですが、大笑いの通訳を交えつつ、かなり長時間話し合いました。これも全て次回のキャンプをよりよくするため。今回の反省が生かされればよいと思います。少し遅い昼食をとり、(これが超辛い中華料理屋さん!) 市内観光に出かけ、最後の桂林を満喫しました。

(えり)

## 8 . 係別の感想・まとめ

### リーダー総まとめ

(よっぴ)

今回はハンセン病回復村であるピンサン村において中国人キャンパー18名+我々8名で10日間のキャンプを実施。

排水溝設備(予定より早く完成。雨期の洪水による床下浸水を回避できるようになります)

村人の四肢を中心とした医療ケア(足浴にとどまらずメスややすりや様々な薬を用いての傷口の処置にまで及ぶ。今後の継続について問題多し)

村人宅訪問(ワークのあいまに時間を見つけて酒を片手に。過酷な人生を送ってきた彼らとのツナガリ。)

隣村訪問(ハンセン病と関係ない村。ピンサン村に対する偏見によるさまざまな問題の解決の糸口を見つけるために)

以上がおおまかな目的。フィリピンキャンプと大きく違うところは、中国キャンパーと合同キャンプであること。特に最初のほうはキャンプの目的と少しずれて、キャン

パーどうしのコミュニケーションや共同生活自体に四苦八苦。だけどそれが故に生まれたツナガリも多数。特にケアについてはタイラン曰く「ここまで本格的にしても毎日毎日ケアを行ったのはF I九州が初めてだ」とのこと。どうにか次回にこの経験を生かして継続の道を搾り出したい、必ずや！！



### 食事について

(えり)



主食は米。ふつうのご飯とおかゆを毎回火をおこしてつくりました。おかずは中華鍋ひとつでつくるといふなんとも中国らしいもの。材料はピンサン村から遠く離れた市場で買ってきてきた、卵、肉、きくらげ、湯葉、瓜

(冬瓜、南瓜、西瓜・・・) ナス、えんどう豆、のり、などなど多岐にわたります。中国人はこれでもかというほど、秘伝の油を鍋にどぼどぼ放り込み、そして適当にそこら辺にある材料を入れ炒めます。そしてここで登場するのが中国版味の素とでも言っておきましょうか、透明の砂糖のような調味料を入れ、早々と味付け完了です。でも悔しいことにこれが結構おいしいんですよ～！そして忘れてはいけないのが、チキン！放し飼いにされている鶏を、鶏絞め係総出で追い掛け回し、首を絞め、血を抜き、毛をむしって茹でます。少々残酷でしたが、私たちが生きていくためには仕方なかったのです・・・これぞ弱肉強食。もちろん日本料理もつくりました。味噌汁、コンソメスープ、カレー、ちらし寿司・・・どれも中国人は喜んで食べてくれました(?)。味噌汁なんて、作っている最中は文句ばかり言われたのに、いざ食してみると意外とお口に合ったみたいです。朝一に食べる味噌汁は本当に体と心に染み入りました笑。

## 生活について

(よっぴ)

掃除 前回のキャンプで生活リーダーしか掃除をしなかったことを反省して、今回は毎日の掃除当番表を作り、昼食後 cleaning time とした。しかしその掃除状況がよく把握できなかったため、次回はそれを簡単にチェックするシステムまでつくろうということになった。

時間 時間厳守が今回の目標だったのでタイムキーパーを作り、時間がくるたびにホイッスルを鳴らした。しかしキャンプ中盤はずこしずつたるんでいき何回かミーティングで気を引き締めあった。就寝時間についても問題となったが、夜更かししたい組は外の広場で・・・ということになった。なにしろ大部屋で皆で雑魚寝のため・・・笑



## レクについて

(みか)



最初は言葉がなかなか通じなくてレクリーダー同士不安だったと思う。でも、中国キャンパーが『未来へ』を知っていたことから話が進み、お互いの国の歌を覚えてみんなで歌おうということになった。短い時間ではあったけど、歌詞を貼り出しておいたことで練習時間以外でも練習している様子があってよかったと思う。当日は中国の歌を全部覚えることはできなかったけれど、お互いのキャンパー同士がひとつになった気がした。出し物やゲームはどちらかというと中国キャンパーが主に引っ張ってくれて、レクリーダーとしての事前からの力量のなさに反省として残っています。しかし、村人達の参加もあり、とても楽しめたと思う。

# ケアについて

(ゆき)

ケアについて。今回ピンサン村で初めて村人の足の『ケア』という名の足浴を実施した。ケアの内容は、私達の目標は村人が足浴の仕方を覚えて継続して足浴が出来る。というような目標があった。理由は足浴がハンセン病の傷に良いと聞いていたから実施したかった。具体的に足浴とは、下図に示す。

1、一回目は水を八分目くらいつけたバケツに足を入れて石鹸で洗う。

2、一回流して綺麗な水に交換する。

3、二回目綺麗な水に交換して足をつける。バケツに塩を一つまみ入れて20分つけておく。

4、20分後足をあげて終わり。

5、足をタオルで拭き取ってタコや傷がある人はガーゼ交換。傷がなくて足の裏が固くなってる場合は剃刀ナイフで硬い皮膚を切りとる。切り取らないと硬い部分が圧迫して上手く歩けなくなって転んだり、足の先など感覚がないため固くなってる足をほっといても酷くなっても気付かない場合もある。

今回ピンサン村は3地区に別れている。その3地区を朝からチームを組んで一地区ずつ回った。大体3地区全部合わせて17人くらいの村人が来てくれた。二人一組になって一人の患者さんを受けもった。患者は足浴をしたくて来てるよりガーゼ交換の為に来てるみたいで私達の目的とは違ったが まずは、私達キャンパーが初め

て行うケアに興味を持ってもらう方向がとりあえず、必要だったし興味を示して集まってきてキャンパーと一緒に仲良くするだけでもコミュニケーションであった。実際、足の傷も見せてくれるのか心配してたがすんなり見せてくれた。それが思ったより傷が酷くてガーゼ交換しても膿ができていたりガーゼが浸出液で汚染されていた。



# 会計報告

(あおき)

## 1. 現地到着前

費用の種類	使用用途	金額(総額)	金額(一人あたり)
交通費	往復航空券		57300円
保険代金	海外渡航保険(損保の off)		4270円
食費	すし太郎	1252円 (7人)	179円
	カレー&みそ	1526円 (7人)	218円
ワーク費	医療用グローブ	2060円 (7人)	294円
	百均にて(ピンセットなど)	4900円 (7人)	700円
	医療品・薬	2980円 (7人)	426円
総額		12718円	63387円

## 2. 現地到着後

費用の種類	使用用途	金額(総額)	金額(一人あたり)
交通費	バス (広州空港~広州)	144元 (9人)	16元
	夜行バス (広州~桂林)	1050元 (7人)	150元
	タクシー (桂林~ホテル)	24元 (8元×3台・7人)	3.4元
	タクシー (ホテル~桂林医学院)	54元 (18元×3台・7人)	7.7元
	バス (桂林医学院~平山村)	160元 (7人)	22.8元
食事代金	広州での夕食	100元 (9人)	11.1元
	ホテルでの昼食	17.5元 (11人)	1.6元
通信費	日本(まゆまゆ)に電話	11元 (7人)	1.6元
村での経費	ビンゴ景品費用 (酒、歯ブラシなど)	53元 (7人)	7.6元
	前半3人の村生活費用 (食費・交通費・雑費)	225元 (3人)	75元
	後半4人の村生活費用 (食費・交通費・雑費)	536元 (4人)	134元
総額		2374.5元	296.8元(前半3人) 355.8元(後半4人)

キャンプでかかるお金として、福岡空港で一人1万円ずつ集めました。なお、キャンプアウト後の交通費(夜行バス含む)・食費は個人でバラバラのため、この表には記載していません。